

めざす子ども像

人との出会いを通して 地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

多様な世代の地域住民の絆が繋がっていくようにする。
安心でのびのびと自分を発揮できる環境をつくる。
地域で顔が見え、声を掛け合える地域を目指し、それぞれの防犯防災の意識を高める。次世代を担う若者を育む環境をつくる。

【今年度の取組紹介】

今まで開催してきた「さわやかクリーンディ」を中学生徒会で名称を募集し、名称改め「さわやかフェス2021」を、12月11日（土）開催しました。

公民館・地域の自主防・大学生の協力を得て、参加者に非日常時の体験をしてもらいました。小学生と中学生がチームになってワークショップを体験し、別の中学生はスタッフとして参加し体験内容説明をするなど、例年と違って小規模な開催でしたが、それぞれ工夫してとても充実したものとなりました。



【今年度のまとめ】

「どのような形ならコロナ禍で体験を開催する事ができるか」と、開催にあたり二名公民館・二名地区、青和地区の自主防犯防災協議会（自主防）・地域教育協議会がコロナ感染対策をしながら話し合いを重ねました。

今年は両地区の自主防の協力もあって、「火おこし」「テントたて」「ボードゲーム」など、それぞれができることを子ども達に体験してもらおうとワークショップ形式での開催と決まりました。

参加者からは「非日常体験ができておもしろかった。」「中学生のお兄さんお姉さんと仲良くなれた。」「はじめての体験は難しかった。」、スタッフからは「中学生が頑張ってくれた。」「体験時間が短かった。」「地域の方から学ぶ事がたくさんあった。」等多くの声がありました。

【来年度に向けて】

今年度の経験を基にして、来年も公民館・各自主防や生徒会との協働開催、参加者やスタッフの声を反映させて参加人数を増やしての開催ができるよう考えていきたいです。

めざす子ども像

人との出会いを通して 地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標 多様な価値観と接する中で、自主的に行動し、地域に誇りを持ち、貢献できる生徒を育てる。仲間と積極的に学び高め合い、豊かな感性で、自分の思いを伝え、社会で自律的に生きることが出来る人材を育てる。

【今年度の取組紹介】

令和3年7月に2年生、12月に1年生が、地域やPTAの方々と共に花植えを行いました。7月の2年生はマリーゴールドを、12月の1年生はパンジーを植えました。コロナ禍でしたが、感染対策をしっかり行いできるだけ多くの地域の方々やPTAの方々にご協力いただきました。生徒を思ったださる多くの地域の方々の思いが伝わり、生徒たちにとって心に残る笑顔あふれる1日になりました。自分のプランターにはメッセージカードも添え、花植え後も水やりや観察を続け、愛情を持ってお花の世話をしました。情操教育にも繋がる取組をすることができました。来年度も引き続きこの取組を行いたいと思っています。



今年度は、読書活動推進事業も積極的に行うことが出来ました。地域図書ボランティアの方々や図書委員会のメンバーにより図書室の環境整備が大きく進みました。本の整理の仕方や陳列の仕方等も教えていただきました。昼休みの開館を昼休みにする取組をスタートしたことで、地域図書ボランティアの方々から教わる機会も増えました。多くの生徒が図書室を訪れるようになり、読書に親しむ環境を整えることが出来ました。来年度も更に取組を深めていきたいと思っています。



【今年度のまとめ】

コロナ禍の中、与えられた環境で何が出来るかを全力で考え知恵を出し合った1年でした。協力連携を通し、学校と地域の絆がより強まったと感じています。

地域の方々と共に行った花植え、図書室の環境整備と整理、図書室開館の工夫、防災食作り体験など、事業前の消毒・手洗いの徹底等のコロナウイルス感染防止対策に関して計画を立てて取り組めたことは、二名中学校区にとっておおきな自信となりました。地域の方々や学校の思いは、生徒たちにも伝わったと思います。

お世話になった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

【来年度に向けて】

現在の新型コロナウイルス感染拡大防止対策と並行していかに行事を行っていくのか、これまでの本校の地域の方々と共に作りあげた良き伝統をどのように継承していくのか等、課題はあると思います。これからも、今年のような地域の方々との協力連携し乗り越えていきたいと思っています。

来年度もどうぞよろしくお願い致します。

めざす子ども像

人との出会いを通して 地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

- ・地域の方々やゲストティーチャーの支援のもと本物を体験し、地域を愛する心、生きる力を育むとともに、自ら考え行動できる子どもを育てる。
- ・読書活動等を通して、読書に親しみ、豊かな心と言語力を育てる。
- ・校内における子どもたちによる「あいさつ運動」を始め、登下校時、地域の方々と元気にあいさつを交わすことで地域との関係を深めるとともに、自尊感情やコミュニケーション能力を高める。

【今年度の取組紹介】

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、どのように活動を実施すればよいか、地域コーディネーターとともに検討を重ねました。そして、児童や関わっていただく方々の安全を第一に活動を進めました。

教育支援事業として、家庭科等実技教科の学習支援に入っていただきました。きめ細かな支援をいただき、子どもたちは安心して活動することができました。

また、図書環境事業として、図書修復や図書室環境を整備していただきました。子どもたちの読書活動が推進し、言語力育成につながりました。

「できることを できるひとが できるやりかたで」という支援が広まり、持続可能な活動への見直しが進みました。



【今年度のまとめ】

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、工夫をしながら子どもたちと地域の方が出会い、活動することで、子どもも大人もこの地域での存在意識を感じることができました。学校と地域が協働して、「本物を体験し、地域を愛する心、生きる力を育むとともに、自ら考え行動できる児童を育てる。」という目標に向けて、よりよい学びの構築のため時間や思いを共有でき、今後に向けての方向性が見えてきました。

【来年度に向けて】

学校と地域がねらいを共有し、協働して、本校の「目指す子ども像」「取組目標」を具現化できるように努めたいと思います。状況に応じた内容や取り組み方の改善を図って、継続可能な事業の展開をめざします。

めざす子ども像

人との出会いを通して 地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

見守り等に感謝する心を育て、自尊感情・地域への愛着を醸成する
地域の人と関わる活動を通して、様々な人との関わり方を学ぶ
環境整備を通して、活動の意義や自分のできることに気づき、行動する

【今年度の取組紹介】

□コロナ禍における地域と共に行う活動

二名小学校では、地域ボランティアの方に教育活動を支援いただいたり、多くの学年で地域人材をお迎えしての授業を行ったりしています。今年度も人と直接接する機会は制限されましたが、感染対策に留意しながら「どんぐり工作」の教室や「声楽出前授業」などを行うことができました。

□地域の方と共に行う活動

環境整備事業の一環として、花いっぱい運動として、地域の方と共に花の苗を植えました。地域の方とのつながりをスタートとして、児童が継続的に世話をするといった形で地域とのつながりを感じる活動となっています。

□図書ボランティア「としょぼ」の活動の工夫

「としょぼ」は、年間を通じて図書館の環境を整えたり読み聞かせをしたりしてくださっています。児童と共に活動したかったのですが、新型コロナウイルス感染症に配慮し、環境整備については、児童のいない放課後や長期休業中に行い、毎日の活動は図書委員が引き継ぎ図書室をきれいに保っています。読み聞かせ活動を通していろいろな本との出会いを提供していただきましたが、昨今のコロナ禍でできませんでした。かわりに読み聞かせの動画を複数回撮影し、朝の時間内にテレビを通して各教室で放映する活動を実施しました。



左：声楽出前授業

右：読み聞かせ動画の視聴

【今年度のまとめ】

これまで、地域の方と共に活動することを大切にしてきましたが、今年度もコロナ禍で、多くができなくなってしまいました。しかし、約2年間のコロナ禍の中で、「コロナ禍であってもできること」や「コロナ禍に対応した方法」を考え、取組を前に進めることができました。

【来年度に向けて】

来年度もコロナに対応した運営方法を念頭に置いて、事業を進めてまいります。オンラインや三密をさけた形での事業の実施を考え、子どもたちや地域の方々が安心して活動ができるようにしていきたいです。

めざす子ども像

人との出会いを通して 地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

- ・日本の伝統文化や世界遺産に触れ、
地域を知り身近に感じることができるように関わり。
- ・地域の方と触れ合い、未就園児・小学校・中学校との交流を通して、
コミュニケーション力の育成を目指す。

【今年度の取組紹介】

(ミュージックケアを楽しもう)

ゲストティーチャー（音楽療法士）を迎え、子どもたちと地域の方と一緒に音楽を聴きながら、体を動かしたり、鈴・鳴子・ハンドベルなどの楽器やスカーフを使ってリズムを合わせたりして、みんなで一体感を味わいました。子どもたちも地域の方も心を開放して楽しく取り組むことができました。



(お茶会)

講師の先生から、作法やお茶の点て方を教えていただきました。いつもと違う静かな雰囲気の中、緊張しながらも自分で点てたお茶は格別なようで「美味しかったよ」と感想が出ていました。お茶会の雰囲気を味わい、日本の伝統文化に触れる貴重な体験になりました。



【今年度のまとめ】

- ・コロナ禍の中で感染症拡大防止対策を講じながらも、地域の方々や保護者に協力していただき、一緒に園内の環境整備を行うなど様々な体験をすることができ、活動の意義を再確認しました。子どもたちは地域の方々へ親しみを感じ、感謝の気持ちを持つことができました。
- ・体力向上事業（サッカーで遊ぼう）では、体を動かして遊ぶ楽しさや、最後まであきらめずに取り組むことの大切さを知りました。様々な活動を通し、継続することで楽しさが増し「もっとやってみたい」と意欲が生まれ自信につながりました。

【来年度に向けて】

園児が減少していく中ですが、地域の教育力を活かした保育内容を工夫し、地域の方々や保護者の協力をいただきながら継続して事業を進めていきたいと思っております。

また、各取組で学んだことや感動体験を、日々の遊びの中に活かし、より保育を充実させていきたいと思っております。

めざす子ども像

人との出会いを通して 地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

心豊かにたくましく地域の中で生きぬく子どもの育成

【今年度の取組紹介】

《体験活動事業「地域探検」》

自分たちの地域を知り、親しみがもてるように、5歳児が「地域探検」を行いました。当日、自分たちでつくった探検カード“さがしてみよう”を持って地域に出発しました。道中、探検カードを見ながら「この道知ってる。」「曲がるんだね。」「中学校や。」と友達と嬉しそうに見つけたものを教え合ったり、チェックポイントでは、シールを貼ったりして楽しみました。お米作りを教えてもらっている“お米の先生”に出会いトラクターを見せてもらったり、園児の祖父母や地域の人に出会って挨拶を交わしたり、「気をつけてね。」と横断歩道で見守っていただいたり、素敵な出会いがたくさんありました。園に戻り、担任が作った写真入りの大きな地図を見て、友達と楽しく振り返ることで、自分達の住んでいる地域に興味をもち、親しみをもつ体験となりました。降園時には、大きな地図を貼り出し、子ども達の様子を保護者に伝えることで、保護者も「楽しそう。」「今度子どもと行ってみます。」と地域に興味をもたれる機会となりました。



《体験活動事業「英語で遊ぼう」》

地域の方をゲストティーチャーに招き、「英語で遊ぼう」を行いました。先生の元気な挨拶に子ども達も笑顔になり、英語の歌やダンスを教えてください、全身を使いながら進んで英語を話そうとするようになりました。2月の参観では、教えていただいた英語の歌や英語で自己紹介をする姿に、お家の人から驚きの声が聞かれました。



【今年度のまとめ】

毎年活動を積み重ねることで、保護者の方々にも周知でき、地域で大事に受け継がれている「柿渋染め」を楽しみにされたり、お米作りの成長や収穫を親子で心待ちにされたりするようになりました。また、子ども達の一年の生活の流れの中に位置づけてきたことで地域の方々とのつながりが深まり、ネットワークが広がりました。コロナ禍ではありましたが、活動の様子を掲示物やホームページ、クラスだよりなどを活用して啓発したことで園評価アンケートでは、95%以上の方から次年度以降も継続してほしいとの回答をいただくことができました。

【来年度に向けて】

地域の方々のご支援やご協力を得ながら連携を図り、子ども達が地域を知り、地域の方と親しみ、温かさや安心感をもてるような活動を積み重ねていきたいです。そして、子どもも保護者も住んでいる地域を知り親しみ、大切にしていこうという気持ちをもち続けてほしいです。